

令和6年度
劇場・音楽堂等機能強化推進事業
(地域の中核劇場・音楽堂等活性化事業)
成果報告書／事後評価書

団体名	公益財団法人鳥取県文化振興財団
施設名	鳥取県立県民文化会館(とりぎん文化会館)
内定額	2,438 (千円)

1. 基礎データ

(1) 開館日数・事業本数・貸館日数

項 目		令和5年度	令和6年度
開館日数		308	307
年間事業本数（※1）	主催事業	17	19
	公演事業	6	7
	（内、本助成対象事業本数）	0	0
	人材養成事業	2	4
	（内、本助成対象事業本数）	0	3
	普及啓発事業	9	8
	（内、本助成対象事業本数）	0	6
	その他 内容： 記入してください	0	0
貸館日数	ホールごとの貸館日数	372	290
	ホール名： 梨花ホール 座席数： 2,000席	154	154
	ホール名： 小ホール 座席数： 500席	218	136
	ホール名： 記入してください 座席数： 記入してください		
	ホール名： 記入してください 座席数： 記入してください		
	ホール名： 記入してください 座席数： 記入してください		

※1 事業の延べ実施回数ではなく、事業本数を記入してください。

(2) 施設利用者数・利用率

項 目		令和5年度	令和6年度
施設利用者数（※2）	主催事業入場者・参加者数	7,776	17,717
	公演事業	4,820	7,789
	人材養成事業	50	83
	普及啓発事業	2,906	9,845
	その他 内容： 記入してください	0	0
	貸館事業入場者・参加者数	98,888	87,884
	その他 内容： 記入してください	0	0
	計	106,664	105,601
施設の利用率(%)		71.2%	71.0%

※2 実演芸術の公演等を鑑賞する者、ワークショップ等に参加する者、その他の劇場・音楽堂等の事業を利用する者の延べ人数を記入してください。劇場・音楽堂等のスタッフや、併設施設(美術館、図書館等)のみへの入場者数は除きます。

(3) 公演事業データ

事業種別		事業本数	公演回数	入場者・参加者数	入場者・参加者率	事業本数内訳						
						演劇	音楽	舞踊	伝統芸能	演芸	総合（※4）	その他
令和5年度	主催公演（※1）	18	19	9,913	46.0%	0	13	3	2	0	0	0
	共催・提携公演（※2）	10	10	6,733	67.0%	0	10	0	0	0	0	0
	貸館公演（※3）	261	261	98,888	33.3%	12	70	13	4	0	4	157
	計	289	290	115,534								
令和6年度	主催公演（※1）	17	19	9,522	76.9%	1	13	1	1	0	0	1
	共催・提携公演（※2）	15	15	7,227	58.5%	0	10	0	0	1	1	3
	貸館公演（※3）	217	220	87,884	35.1%	14	83	18	2	1	0	99
	計	249	254	104,633								

※1 名義主催は除きます。
※2 名義共催を含みます。
※3 「貸館公演」における「入場者・参加者数」及び「入場者・参加者率」は概算で構いません。
※4 「総合」には、フェスティバル等における事業数を記入してください。

2. 公演事業の実績記録と自己評価

(1) 各公演事業における 評価項目「創造性・企画性」に関する評価指標・目標(値)

・ 令和6年度助成対象事業のうち公演事業について、助成対象事業ごとに自己評価を記入してください。

事業 番号	事業名	入場者数	入場 者率	評価指標	目標(値)	実績(値)	団体の自己評価	所見	備考
		目標 値							
		実績 値							
		目標 値							
		実績 値							
		目標 値							
		実績 値							
		目標 値							
		実績 値							
		目標 値							
		実績 値							
		目標 値							
		実績 値							
		目標 値							
		実績 値							
		目標 値							
		実績 値							
		目標 値							
		実績 値							
		目標 値							
		実績 値							
		目標 値							
		実績 値							
		目標 値							
		実績 値							

3. 自己評価

評価項目①：創造性・企画性

評価の観点
・(企画力)地域の状況と芸術性とのバランスが取れた、特色ある事業計画である。 ・(制作力)優れたアーティストやスタッフ等が才能や技能を発揮し、高い水準の作品制作や各種事業が行われている。 ・(発信力・影響力)圏域内外の実演芸術を牽引する成果が期待できる。 ・(レジデントカンパニー・アーティスト)当該劇場を創造拠点又は準拠点とする実演芸術団体やアーティストを擁する。 ・自由設定の観点(任意)

(1) 令和6年度の自己評価

- 評価補助シートで設定した評価指標と目標(値)、及び、その達成度に言及しながら、事業類型ごとに自己評価を記入してください。

	評価指標	目標(値)	実績(値)	団体の自己評価	所見	対応・追加情報など
公演事業						
人材養成事業	①全事業への参加者数 ②育成対象者の事業に対する満足度 ③育成対象者の知識の深まり度 ④育成対象者のモチベーション向上度	①全事業での目標参加者数を達成 ②アンケートで「良かった」「普通」「悪かった」の中から「良かった」の回答が80%以上 ③アンケートで知識が「深まった」「普通」「深まったとは言えない」の中から「深まった」の回答が80%以上 ④アンケートでモチベーションが「高まった」「普通」「高まったとは言えない」の中から「高まった」の回答が80%以上	①3事業中0事業 ⇒未達成 ②3事業の満足度平均96.0% ⇒達成 ③3事業の理解度平均98.6% ⇒達成 ④3事業のモチベーション向上度平均87.7% ⇒達成	【達成度】①のみ目標未達成となったことが悔やまれる。②③④の事業内容の質に関する部分に関しては、目標値を大きく上回る結果となったことから、質の担保された事業であることをPRし、参加者数の増加を今後図っていく。 【評価項目】3事業とも、それぞれ明確な地域ニーズに基づいた企画力を発揮し、参加者の専門性向上に貢献した。職員セミナーでは、鳥取県文化施設協議会との連携のもと、劇場運営や広報、安全管理等、現場の実情に即したプログラムを実施。多様な参加者を得て実践的な課題共有が進み、施設及び組織間ネットワーク形成に寄与したほか、県外で活躍する専門人材を講師として招聘したことで、全国的な動向・求められる専門性の高さ等を県内の各文化施設職員で共有することができた。舞台技術研修会は、鳥取大学や高校演劇部、公立施設職員向けに実践的な講義と実技を行い、舞台技術の基礎から高度な保守管理まで幅広くノウハウを共有した。教育機関との連携で若い世代にも劇場の機能・役割・職員の専門性等を伝えることができた。またU-18シアタープロジェクトでは、県内で実績のある指導者を講師に迎え、地域の若者が本格的な戯曲創作に取り組める機会を提供。若年層の創造的活動の促進や継続的フォローを通じて、次世代の育成を図った。いずれの事業もチラシ、SNS、教育機関との連携など多様な手法で発信力・影響力を強化し、情報を波及させた。特に行政職員や教育関係者、若年層など従来とは異なる参加者層に訴求することで、圏域内の文化芸術活動を牽引する基盤を築いた。今後は参加機会の多様化、オンライン併用等により、さらなる参加者拡大を目指す。	◇人材養成事業としてはアートマネジメント研修、舞台技術研修会、プロデュース事業の3つを実行しておりそれぞれ丁寧な対応により所定の成果をあげているようだ。 ◇公演調査ではアートマネジメント研修に参加した。これは鳥取県劇場等職員セミナーとして県内の劇場等職員を対象とし、講師を招いて丸1日の座学を実施したものである。県、市の職員、県内の文化施設の関係者等73名を集め、研修施設でもある「エースバック未来中心」内の小ホールやセミナールームで実施された。 ◇冒頭に県民文化会館館長から「県内には13の施設があるが、問題点を共有化することはなかった。今回のセミナーを契機として交流をはかっていきたい」とのメッセージがあった。縦割りの弊害を打破しようとする意図が伺えた。 ◇講義内容には精粗があり必ずしもすべて満足のいくものではなかったが、会場の参加者にとってはインパクトを与えたものと思われる。 ◇自己評価にある「今後の多様化、参加者の拡大を」との意欲に期待したい。	
普及啓発事業	①全事業への参加者数 ②新規鑑賞者数 ③芸術文化に対する関心度 ④関係者(受入先等)による評価	①5事業中4事業での目標参加者数を達成 ②全事業の平均新規鑑賞者数(始めて同ジャンルのイベントに参加した)30%以上 ③参加したイベントのジャンルに対する関心度「高まった」「普通」「高まったとは言えない」の中から「高まった」の回答が80%以上 ④アンケートで「また実施してもらいたい」の回答が80%以上	①5事業中3事業で達成 ⇒未達成 ②全事業の平均新規鑑賞者数(始めて同ジャンルのイベントに参加した)36.2% ⇒達成 ③参加したイベントのジャンルに対する関心度「高まった」「普通」「高まったとは言えない」の中から「高まった」の回答74.0% ⇒未達成 ④アンケートで「また実施してもらいたい」の回答100% ⇒達成	【達成度】「とっとり郷土芸能フェスティバル」の出演団体決定の遅れが目標①未達の主な要因となった。③では「普通」という選択肢を入れたことで多くの回答者が「普通」を選ぶ傾向が見られた。一方で、「高まらなかった」の選択が極小数にとどまったことから、選択肢設定の精査も今後の課題である。 【評価項目】普及啓発事業においては、地域特性と芸術性を融合させた多彩なプログラムを展開し、文化芸術の裾野拡大と専門性向上に貢献した。企画力の観点では、「みんなのピアノ聴き弾きくらベコンサート」で舞台上に客席を設け、ピアノを間近で体感できる環境をつくり、「ホール探検ツアー」では舞台裏を知る体験型プログラムを構成した。市町村連携公演では江府町(過疎地域)、琴浦町(町制20周年)、八頭町(地域共生社会)と地域特性に応じた企画を展開した。「アートSQUARE夢空間」では未就学児向けと大人向けの二つのプログラムを実施し、「とっとり郷土芸能フェスティバル」では存続が危ぶまれる伝統芸能・郷土芸能の発表機会を創出した。制作力では、鳥取チェンバーオーケストラメンバーやNHK交響楽団奏者などの一流演奏者を招聘し、地元アーティストとの協演を実現させた。技術面でも照明・音響体験コーナーの提供や映像投影の積極活用による演出効果向上等、企画の内容充実を図った。発信力・影響力の成果として、「みんなのピアノ聴き弾きくらベコンサート」の完売や「とっとり伝統芸能フェスティバル」での44.2%という高い新規鑑賞者獲得率が挙げられる。	◇普及事業は①「けんぶんファミリープログラム」としてピアノの聴き弾き比べ、ホール探検ツアー、アートSQUARE夢空間(親子で参加する小公演等)の3項目、②アーティストが県内地域に出向くアウトリーチ、③とっとり郷土芸能フェスティバルである。 ◇いずれも参加者への丁寧な配慮が必要なものであるが、自己評価にあるように参加者数、関心度の未達成が多く残念な結果に終わったようだ。 ◇今回は結果が出なかったものもあるが、地域の特性や需要を踏まえた多彩なプログラムは評価できる。 ◇人口が少ない鳥取県としての厳しい背景は多分にあるものの事業として行うには今回の反省を精査し、今後に生かして欲しい。	

(2) 「創造性・企画性」が向上したことを示すエピソードやグッドプラクティス事例を記入してください。

●鳥取県劇場等職員セミナー：鳥取県文化施設協議会の加盟館職員とともにプロジェクトチームを結成し、事業の設計段階から現場の実情に即したニーズ調査を行った。従来、開催館ごとに任されていた研修設計に比べて、今回は各館共通の課題を整理した上で研修モジュールを構築したことにより、実務性と汎用性を備えた内容に仕上がった。また、文化施設職員だけでなく、県・市の主管課職員10名が参加し、施設と行政の連携強化にもつながる副次的効果を生んだ点は、本セミナーの創造的進化の象徴といえる。
●舞台技術研修：大学・高校・文化施設職員という異なる層に向けて、対象別にカスタマイズされた研修を実施した。例えば、鳥取大学の授業と連携して学生に舞台裏を紹介した回では、照明や音響の操作体験も導入し、「演者」「観客」だけでなく劇場の多面的な魅力に触れる機会を提供できた。こうした教育機関との協働により、文化施設が学びの場としても機能し得るという認識が広がった。
●U-18シアタープロジェクト：演劇経験の有無を問わず高校生等の若者を対象に、戯曲創作に挑戦してもらう講座を計14回にわたり実施した。各講座の終了後に、講師が一ひとりに個別のメッセージを送ることで、創作意欲の持続と自己肯定感の向上を支援する仕掛けも施した。こうした丁寧なフォローアップが、創作活動を一過性で終わらず、将来の表現者育成に資することにつながった。
●みんなのピアノ聴き弾きくらベコンサート：2台のピアノを聴き比べるだけでなく、調律師とピアニストの解説を通じて音の違いや構造を学び、さらに舞台上に観客席を設けることで臨場感ある体験を提供した。聴く・学ぶ・体感するという三層構造の企画は、特に親子層に好評を博し、音楽への関心を高めるきっかけとなった。
●ホール探検ツアー：当日本番を迎える新作パレエ「赤毛のアン」と連動させることで、単なる施設見学ではなく臨場感のある体験を提供できたほか、実際に照明機器を操作する体験を組み込んだことで、劇場の技術スタッフという「見えない仕事」に光を当てた。子どもたちからは「ステージはスタッフが作っていると初めて知った」という声も多く寄せられ、舞台芸術の裾野を広げる大きな契機となった。
●市町村連携公演：地域住民が親しみやすい内容と地元密着・地域アイデンティティの醸成を重視し、訪問先の町歌を弦楽四重奏版に編曲して演奏したり、子どもたちが魔法のステッキを振って照明操作に参加するなど、観客が能動的に関わる仕掛けを多く取り入れた。これにより、「届ける芸術」から「共につくる芸術」への転換の一助となった。

評価項目②:国際性(任意)

評価の観点
・(国際プレゼンスの向上)海外の劇場やフェスティバル、実演芸術団体等と連携し、国際共同制作や海外作品の招聘等に取り組んでいる。 ・(国際交流)アーティストや文化芸術関係者の招聘等、人的交流や情報交換が行われている。 ・(新たな創客への取組)在住外国人や訪日外国人に向けて文化芸術体験の機会を提供する等、グローバルな視座で創客に取り組んでいる。 ・自由設定の観点(任意)

(1) 令和6年度の自己評価

- ・ 評価補助シートで設定した評価指標と目標(値)、及び、その達成度に言及しながら自己評価を記入してください。

評価指標	目標(値)	実績(値)	団体の自己評価	所見	対応・追加情報など

(2) 「国際性」が向上したことを示すエピソードやグッドプラクティス事例を記入してください。

評価項目③:地域文化拠点機能

評価の観点
・(文化拠点)地域の特性やニーズを踏まえ、地域の文化資源を活用するなど、地域の文化拠点として事業が組み立てられている。 ・(地域連携)地域の関係機関と連携・協力し、地域コミュニティの創生や社会課題の解決等に取り組んでいる。 ・(児童生徒への機会提供)次代を担う子ども達を対象とした鑑賞や体験事業が行われている。 ・ホール利用サービス(貸館事業)の向上 ※ ・自由設定の観点(任意)

※ ホール利用サービス(貸館事業)を行っていない場合は不要

(1) 令和6年度の自己評価

- 評価補助シートで設定した評価指標と目標(値)、及び、その達成度に言及しながら自己評価を記入してください。

評価指標	目標(値)	実績(値)	団体の自己評定	所見	対応・追加情報など
①地域のアーティスト・アートマネジメント人材・協力者の事業参画者数 ②連携団体数(基礎自治体・福祉分野・教育関係団体・企業等) ③子どもが参加可能な対象事業の18歳以下参加率 ④幸福度の向上(主に鑑賞型・WS等の体験型事業) ⑤貸館利用者の満足度 ⑥劇場からのメールマガジン配信希望者数	①100人以上 ②10団体以上 ③参加率15%以上 ④アンケートで「非常に幸せ」「幸せ」と回答した人が80%以上 ⑤-1 利用者の80%以上が利用した施設に「満足」「とても満足」と回答 ⑤-2 利用者の80%以上が職員の対応が「良い」「とても良い」と回答 ⑥前年度比率5%増	①実績 327人 ⇒達成 ②実績 21団体 ⇒達成 ③参加率 32.1% ⇒達成 ④幸福度 94.5 ⇒達成 ⑤-1 満足度 99.5% ⇒達成 ⑤-2 99..9% ⇒達成 ⑥前年度比率 10.3%増 ⇒達成	【達成度】 目標を全て達成したことが大きな成果と言える。地域のアーティスト・アートマネジメント人材・協力者の事業参画者数は目標値(100人以上・10団体以上)を大幅に上回る成果であった。また、18歳以下の参加率も目標の15%以上を大きく超え、次世代育成においても効果を上げた。「幸福度の向上」では、94.5%の幸福度を獲得し、文化体験が来場者に高い満足感とポジティブな感情を与えていることを劇場側も実感することにつながった。施設利用者の満足度(99.5%)、職員対応への評価(99.9%)も極めて高く、施設としてのホスピタリティ・信頼性の高さを評価していただいた。メールマガジン登録者数も前年度比10.3%増と、情報の受け手も県内在住者に留まらず、文化情報の発信を通じて鳥取県との繋がりが全国に拡大している。継続的な関係構築やネットワーク拠点としての機能維持のために、「循環」や「共創」の質をどのように高めていくかが今後の課題である。 【評価項目】 本事業を通じて、文化芸術を媒介として人材・団体・地域社会をつなぐ当館のハブとしての機能を確実に強化することができた。単発のイベントにとどまらず、人材養成、若年層育成、市町村との協働、情報発信といった多角的な取り組みを通じ、文化拠点としての土台を築いた。特に、人材養成事業では、県内各地から劇場・ホール関係者や自治体職員が集まり、実務に根差した実践的な学びとネットワークの形成を実現した。また、アウトリーチ事業を通じて、過疎地域や交通困難地域にも文化芸術を届けることができた点は、「誰もが文化にアクセスできる地域拠点」として県全域の文化振興を設置目的とする本館の機能を実現できたと言える。連携自治体との関係性は年々構築されてはきたが、事業ベースのつながりが多く、文化政策や中長期ビジョンを共創・共有するまでには至っていない。今後は、地域側が文化的主体として動く後押しとなる仕組みづくりを当館としてどう後押しできるかが課題である。	◇連携団体や子供の参加、利用者の満足度などにつき目標を達成している。 ◇自治体と財団、地域住民と出演者のコミュニケーションを通じ、劇場・音楽堂が地域の文化拠点として機能していることを示しているのは評価できる。 ◇人口52万人の鳥取県の事情を考えるといかに関係者の広がり構築するかが課題であろう。そのためには普段のたゆまぬ努力が必要である。 ◇小都市であることは逆に県民との意思疎通が他県より容易であるとの利点をうまく生かせれば事業の活性化も期待できる。	

(2) 「地域文化拠点機能」が向上したことを示すエピソードやグッドプラクティス事例を記入してください。

● アートSQUARE夢空間スペシャル 複数ジャンル(音楽・声楽・バレエ・イラスト)を融合し、親子で参加できる体験付きの舞台芸術イベントを開催することができた。会館併設レストランの巻き込みや出前図書館の活用など、施設の機能を横断的に活用した文化的拠点形成を図ることにつながった。
● ホール探検ツアー 小学生を対象に、普段は立ち入ることのできない本番直前の雰囲気・空気感を味わいながら舞台裏を探検し、照明・音響の体験を通じて裏方の仕事やチームワークの重要性を学ばせる構成としたため、将来的な舞台技術人材や観客育成の第一歩となる事業となった。
● とっとり郷土芸能フェスティバル 鳥取県東部・中部・西部の多様な伝統芸能・郷土芸能団体による発表と併せて、映像や写真スライドも活用することで地域資源(芸能・祭礼)の魅力を多角的に紹介することができた。外部出演の少ない団体にもスポットを当て、県全域の文化継承への関心を喚起した。
● 「U-18シアタープロジェクト」 地域に住む若者の創造性とメッセージを演劇という表現手段に昇華させることで、地域の声が舞台芸術として可視化される構造をつくった。
● 市町村連携公演 過疎指定地域(江府町)において、自治体と財団が連携し、地域住民と出演者との間をつなぐ関係性を構築することができた。各地域において、継続的に地域密着型の文化事業を実施する共催体制が確立されつつある。 八頭町「地域共生にじいろフェスタ」では、社会福祉協議会と協働し、障がい当事者を含む多様な住民が同じ空間で芸術に触れる場を共創した。高齢化や多様性の進行という地域課題に対して、文化芸術の側からアプローチすることができた。 ことうらキッズコンサートでは0歳児から入場可能とし、文化体験を家族の思い出と結びつける工夫として、子どもたちが開場時間中に作成した“魔法のステッキ”を使い照明演出に参加するなど、親子で舞台と双方向に関わる仕掛けを設計した。
● 鳥取大学との連携による舞台技術研修 大学の教育資源と劇場の技術力を結びつけ、地域内の教育機関との持続的な協働モデルを築くことができた。

評価項目④: 多様性とアクセシビリティ

評価の観点
・(プログラムの多様さ)プログラムの種類や形態が多様で、幅広い観客や参加者に訴求する。 ・(参画者の多様さ)アーティストやスタッフとして参画する人々の属性(性別、年代、居住地、他)が多様である。 ・(アクセシビリティ)障がいの有無や年齢、性差、国籍、居住地、経済的状況等に関わらず、あらゆる人々と実演芸術をつなぐため、施設の構造・設備上の配慮、プログラム上の創意工夫やサポート、アウトリーチ等が行われている。 ・自由設定の観点(任意)

(1) 令和6年度の自己評価

- 評価補助シートで設定した評価指標と目標(値)、及び、その達成度に言及しながら自己評価を記入してください。

評価指標	目標(値)	実績(値)	団体の自己評価	所見	対応・追加情報など
①アウトリーチ実施数 ②若年層の参加率(U22,U18,U15チケット販売数)	①鳥取県内で20公演以上 ②主催公演において全体平均10%以上	①実績 44公演 ⇒達成 ②全体平均 21.3% ⇒達成	【達成度】 ①、②の2項目いずれも目標を上回って達成することができた。アウトリーチ実施数は42件で目標を大幅に超えた。地域に出向く演奏会や助成対象外事業(学校向けアウトリーチ)の積極的展開によるものである。若年層の参加率においても目標値を大きく上回る成果となった。特に、助成対象外事業の公演事業(鑑賞型事業)では、文化庁「劇場・音楽堂等における子供舞台芸術鑑賞体験支援事業」に採択されたことが、若年層の参加率向上に大きく寄与した。助成対象事業においても、ファミリー層向けプログラム(普-01、普-02)では、18歳以下の参加率が45%以上に達しており、世代を超えた参加が顕著に見られた。 【評価項目】 プログラムの多様さにおいては、事業全体を通じて、音楽・演劇・舞台技術・バレエ・体験型ワークショップ等、幅広いジャンル・形式のプログラムを企画した。特に「アートSQUARE夢空間スペシャル」では、声楽・バレエ・器楽演奏・朗読・工作を1時間に詰め込み、観客の多様な興味に応える内容を実現できたほか、日常の生活文化や地域文化に焦点を当てた郷土芸能公演の実施も、プログラムの多様性を担保することにつながった。参画者の多様さにおいては、出演者・参画者について、年齢やキャリアの異なるアーティストや、地域在住の文化活動者と首都圏のトッププレイヤーが共演する場面を設けることができた。一方で、参画者の属性の多様性(性別、国籍、経済的背景、障がいの有無等)について、多文化共生型の事業展開はできていないのが現状であるため、今後検討していく。アクセシビリティにおいて、情報保障(多言語対応・字幕・手話通訳など)については、全体として常設的に提供できておらず、今後の課題とする。	◇プログラムは音楽、演劇、舞台技術、バレエ、体験型ワークショップ等、多様性が認められる。ただし参画する人の属性については目立った成果は得られていないようだ。 ◇障がい者への対応については伝統芸能フェスティバルに手話通訳を配した点は評価するものの施設の配慮その他のサポートは今後の課題である。 ◇「子供舞台芸術鑑賞体験支援事業」を活用したことは親子の参加が増えて効果があったと考えられる。親子参加等を目的とした普及事業の「けんぶんファミリープログラム」の成果に寄与したと認められる。	

(2) 「多様性とアクセシビリティ」が向上したことを示すエピソードやグッドプラクティス事例を記入してください。

● アートSQUARE夢空間スペシャル 子ども向けプログラムでは、声楽・器楽・バレエ・ナレーション・イラスト投影を組み合わせることで、多様な芸術ジャンルを横断する構成を実現した。終演後には、来場者がその場でバレエ、弦楽器、声楽の体験に参加できるコーナーを展開し、「観る」「聴く」にとどまらない能動的な芸術体験の場を創出した。また、出前図書館や工作スペースを同時に運営することで、異年齢層の親子連れも滞在しやすい空間を形づくり、家族ごとの過ごし方に応じた多様な関わり方を創出した。 ・アフタヌーンコンサートでは、クラシック音楽の裾野を広げることを目的に、1ドリンクとお茶菓子を提供するカジュアルな演奏会を企画した。演奏者は、演奏前後に丁寧なトークを交えながら作品を紹介し、来場者が音楽を身近に感じられるよう工夫した。公演時間を短めに設定し、堅苦しさを排した構成としたことで、高齢者や初めてクラシックに触れる観客も安心して参加できる空間をつくった。
● とっとり郷土芸能フェスティバル このフェスティバルでは、和太鼓、麒麟獅子舞など鳥取県内の多様な郷土芸能を一堂に集め、世代や地域を超えた伝統芸能・郷土芸能の広がりを体現した。出演者には、高校生、大学生も含まれ、多様性の担保を図った。演目の合間には各芸能の背景や祭礼の様子を紹介するスライドや映像を上映し、初めて接する観客にも親しみや理解が深まるよう設計した。また、聴覚障がいのある観客にも情報が届くよう、司会進行に手話通訳を配置した。さらに、来場者層の特性をふまえて新聞折込やチラシ配布を中心に広報を展開し、普段公演情報にアクセスしにくい層にもリーチを図った。
● ホール探検ツアー 実演芸術の裏方に焦点を当てたこのプログラムでは、小学生を対象に舞台裏の各所を案内し、普段は目にする事のない照明・音響の操作や舞台袖の仕組みを体験させた。スタッフは、技術的な仕組みだけでなく、舞台の安全管理やチームワークの重要性も子どもたちに伝え、実演芸術の支え手の仕事への理解を促した。探検という形で親しみやすく演出し、普段、文化芸術になじみの少ない層への参加機会を担保した。
● 市町村連携公演 ことうらキッズコンサートにおいても、乳幼児を含む親子が安心して参加できるよう、土間形式の客席にマットを敷き空間設計に細やかな配慮を施した。 社会福祉協議会と協働した地域共生にじいろフェスタ(八頭町)では、障がいの有無や年齢、文化的背景に関係なく、すべての来場者が一体感をもって文化芸術を楽しめる場づくりを目指し、主催者と連携しながら出演者や演目を慎重に選定した。
● 舞台技術研修会 本研修会では、鳥取大学地域学部 of 学生、高校の演劇部員、公立文化施設の職員といった、レイヤーの異なる多様な参加者に応じて学ぶ場を構築することができた。 アンケート感想の中には「今回見学させていただき、音響や照明などの劇場スタッフの仕事に非常に興味を持ったのですが劇場スタッフにはどうやってなることができるのでしょうか。」といった質問もあり、多様な参加者に対応して事業を行った結果、将来、劇場を支える人材の卵を育てる事業としての可能性が開かれた。
● U-18シアタープロジェクト 各学校への参加者募集時に、演劇部に所属しない生徒への声掛けを依頼したことから、18歳以下というだけでなく、普段、演劇に関わりのない高校生にも参画する機会が生まれた。

評価項目⑤: 自由設定(任意)

①創造性・企画性、②国際性、③地域文化拠点機能、④多様性とアクセシビリティ、⑥運営体制と持続可能性 の項目では成果や課題に言及しきれない事柄について、自己評価を行ってください。

評価の観点

(1) 令和6年度の自己評価

- 評価補助シートで設定した評価指標と目標(値)、及び、その達成度に言及しながら自己評価を記入してください。

評価指標	目標(値)	実績(値)	団体の自己評価	所見	対応・追加情報など

評価項目⑥: 運営体制と持続可能性

評価の観点		現状	目標(値)	実績(値)	団体の自己評価	所見	対応・追加情報など
「実現性」の評価項目より							
(ア)	(多様な財源の確保) 予算計画が妥当であり、事業収入のほか、各種助成金や寄附金・協賛金等の獲得に努めている。						
(イ)	(広報・営業力) 広報計画が充実しており、券売や集客、会員制度等の拡充に努めている。	現状、公演の設定席の70%以上の集客確保に苦戦している。	職員向けブランディング研修参加率70%以上	参加率 82%(41名/50名)	全部署の職員が参加し、各部署の関係者へ商品の強みを把握した上でセールスが可能となる基礎力を身につけることができた。	地域拠点としてのホールの歴史と意義の十分な理解が必要だろう。それによりホールへ所属していることのプライドが醸成され結果として券売意欲が高まることを期待する。	
(ウ)	(他館連携) 他の劇場・音楽堂等との事業連携や協力・支援を通じて、効果的で効率的な事業運営を行っている。						
(エ)	(設置者) 円滑な事業の継続のため設置者と適切に意思疎通を図っており、設置者による人材や財源の確保等が期待できる。						
「持続可能性に関するチェックシート」より							
(オ)	(芸術監督) 芸術監督等、劇場運営の芸術面を統括する人材が配置されている。						
(カ)	(長期的経営) 長期的視点に立ち、劇場運営を統括する、経営実務者が配置されている。						
(キ)	(専門人材の確保) 今日的な劇場運営に必要な職能や専門性を踏まえ、運営体制が整備されている。あるいは専門人材の確保や育成に努めている。						
(ク)	(職制の整理) 芸術監督、館長、支配人、プロデューサー、その他管理職の職位及び職能、一般職員の職務内容等が専門性を基に整理され、役割分担されている。						
(ケ)	(世代間バランス) 年齢バランスを考慮した人材確保を行っている(若年層の雇用に努めている)。						
(コ)	(ジェンダーバランス) 女性管理職比率が30%以上である。あるいは、女性の管理職やリーダー職への登用に努めている。						
(サ)	(ワークライフ・バランス) 仕事と育児・介護等の両立支援制度を整備し、推進している。						
(シ)	(コンプライアンス順守) 情報セキュリティをはじめ、各種コンプライアンスの順守規定を策定し、必要な研修を行っている。						
(ス)	(ハラスメント防止対策) 職場内及び創作現場におけるパワー・ハラスメント、セクシュアル・ハラスメント等防止のための指針等を策定・周知し、必要な研修を行っている。						
(セ)	(適正な契約事務) アーティストやスタッフと適正な契約書を交わしている。						

4. 総評

・ 団体の自己評価

当館は、設置目的である「鳥取県全域の文化振興拠点」としての使命のもと、県内全域を対象とした文化芸術事業の企画・実施・普及啓発・人材育成に取り組み、当初設定した目標の多くを達成することができた。（評価指標16項目中13項目達成）とりわけ、「県民に愛され誇りとなる劇場づくり」、「文化振興拠点機能の強化」、「アートの社会的効用の発揮」というミッションを意識して事業を展開し、「地域における活力源・地域の誇り」としての広域拠点型劇場の実現に向け、確かな歩みを進めることができた」と自己評価する。

◆人材養成事業

鳥取県劇場等職員セミナー(人-01)、舞台技術研修会(舞台技術支援を含む)(人-02)、プロデュース事業「U-18シアタープロジェクト」(人-03)などを通じ、県内文化施設職員、舞台技術者、次代を担う若年層クリエイターの育成に取り組み、その効果が多様な人材層へ及ぶという成果をあげた。これにより、単なるスキル習得にとどまらず、地域文化を支える人材ネットワークの強化へとつなげ、施設ビジョンである「地域の文化芸術振興を図るに十分な施設機能の発揮と専門人材の育成」に寄与することができた。一方で、研修受講後のネットワーク維持や、受講者が実務経験を積む機会を充実させるためのプログラム・体制の構築は今後の課題であり、継続的なフォローアップの設計が必要であると認識している。

◆普及啓発事業

当館を拠点として実施したけんぶんファミリープログラム「みんなのピアノ聴き弾きくらべコンサート」(普-01)、「ホール探検ツアー」(普-02)、「アートSQUARE夢空間スペシャル」(普-04)では、特に親子参加型プログラムを充実させたことにより、ファミリー層の来館促進に寄与した。これらの事業を継続することで、次代の文化芸術の担い手(活動者・鑑賞者・スタッフ)育成につながる「種まき」としての波及効果も期待される。地域を拠点として実施した市町村連携公演(アウトリーチプログラム)(普-03)では、ビジョンに掲げる「広域拠点型劇場」の実現に向け、市町村と連携して地域特性に応じた多様なプログラムを展開し、年齢・属性・地域を問わず幅広い県民層へ文化体験機会を拡大するという成果をあげた。(なお、本助成金対象外ではあるが、本年度は日南町・岩美町とも同様の連携公演を行ったほか、日南町・琴浦町とは新たに連携協定を締結した。)とっとり郷土芸能フェスティバル(普-05)では、少子高齢化やコロナ禍等により衰退が危惧される地域の伝統芸能・郷土芸能の発信に努め、地域の貴重な文化資源を次世代へ継承・発展させる契機を創出した。アウトリーチ実施数は、助成対象外事業を含めて42件となり、目標値を大幅に達成した。プログラムの多様化は進んだものの、情報保障(手話、音声ガイド、字幕対応、多言語対応等)への取り組みが、1事業(手話通訳)のみに留まったことは、今後の課題である。

◆その他の助成対象外事業

ビジョン「実演芸術のプレゼンスを高める劇場」および「優れた実演芸術作品を継続的に創造・発信し、県内外での認知度を高める」の達成に向け、新作バレエ公演「赤毛のアン」では、県内外の多様なアーティスト・スタッフを起用し、バレエ作品(日本初演)として上演したことで、当館の挑戦的な試みを全国に発信する機会となった。鳥取チェンバーオーケストラ第5回定期公演では、国内外で活躍する鳥取ゆかりのプロ奏者と服部百音氏(ヴァイオリン)を迎え、日本初演となる「ヴァスクス:孤独な天使」を演奏した。これらはいずれも「日本初演」を価値のひとつとしており、県内外へ実演芸術の魅力および当館の取り組みを発信する有効な機会となった。しかしながら、広報面において全国発信のためのノウハウが確立されていない点が課題であり、さらなる広報強化と外部連携が求められる。ビジョン「国内外の良質で多様な公演の鑑賞機会の提供と質の高いサービスを実施」においては、鑑賞型公演として、クラシック公演5本(うち、オーケストラ公演2本、海外招聘1本)、演劇公演2本、バレエ公演1本、そして「とっとり伝統芸能フェスティバル」(普-05)等、幅広いジャンルのプログラムを展開した。ここでの課題は、鳥取県への招聘において予算面での大きな制約となる旅費・交通費の工面である。今後、外部資金の獲得、チケット販売力の強化、そして旅費交通費の支出抑制につながる招聘ノウハウの蓄積が必要である。

◆運営面

日本で最も人口が少なく、少子高齢化が進む鳥取県において、券売・集客の強化を図ることは容易ではないが、評価指標として設定した劇場メールマガジン配信希望者数が10%以上増加したことは大きな成果と言える。今後は、広報・券売力強化に加えて、各職員が事業そのものの魅力を高めるプロデュース力や、実施地域で成功につながる要因を見極めるリサーチ力を向上させることも課題である。施設利用者満足度(99.5%)、職員対応への評価(99.9%)がともに極めて高かった結果について、今後どのように評価結果を外部にPRし、当館の貸館実績の向上やプレゼンス強化につなげていくか、検討の余地がある。また、地域に必要とされる施設としての定量的な指標ともいえる施設利用率については、70%以上を維持できており、今後もこの水準の維持に努める。

◆総括と今後の方向性

以上を踏まえ、来年度以降は、地域拠点型劇場としてのプレゼンスをさらに高めるべく、人材育成、文化体験機会の拡充、アクセシビリティ向上への取り組みを継続する。同時に、経済的・社会的障壁を乗り越えるための支援体制(情報保障を含むアクセシビリティ全般)の整備、劇場間ネットワークおよび人的ネットワークの強化といった課題解決に向け、より総合的な文化拠点としての機能高度化に取り組む。

・ 所見

◇人材養成事業の①アートマネジメント研修、②舞台技術研修会、③プロデュース事業等は一定の成果をあげていると認められる。

◇普及事業の①「けんぶんファミリープログラム」、②アーティストによるアウトリーチ、③とっとり郷土芸能フェスティバルは個別には成果を認めるものの、全体としては総合力の発揮、定着にやや距離があるようだ。

◇全体の効果としては地域としてのネットワークの拡張に寄与したといえる。この継続と蓄積により将来は大きな実績が得られることを期待する。また普及事業を通じて将来の芸術文化の担い手の育成をはかることも大切でこの取り組みにも将来の期待がかかる。

◇その中であって「とっとり郷土芸能フェスティバル」は地域に保存されている芸能の継承をはかる重要な企画である。少子高齢化、過疎化の進行による祭りの担い手が失われつつあるのは国家的課題でもある。今後出演団体との意思疎通を円滑にして公演がにぎわうことを望む。

◇自己評価にあるR6年度は採択とならなかったが公演事業として財団初の新作バレエ「赤毛のアン」が上演されたとある。関係者の評価も高いようで地方独自の新創作は共同制作などの選択肢も増え地域を超えた多面的な活性化も考えられる。

◇対象外事業ではあるが鳥取チェンバーオーケストラは県内在住者が少数という構造的な課題を抱えているようだ。地域に愛される我らがオーケストラを育成するには金沢、神戸など他地域の室内オーケストラのあり方の研究も必要であろう。

◇今後の財団のテーマとしては鳥取県の小人口というハンディをいかに克服できるかという施策が求められている。一県だけでは限界があるので他地域、域外との連携、協力体制の構築が必要と考えられる。

◇芸術文化の役割、力が試されているといえよう。